

メプロニル水和剤 バシタック水和剤75	取扱メーカー： クミカ、一農、琉産 原体メーカー： クミカ
成分： メプロニル〔酸アミド系 PRTR・1種〕……………75.0%	性状： 類白色水和性粉末63μm以下 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

●野菜類苗立枯病に対する作用性では、リゾクトニア菌には特異的に活性を示すがフザリウム、ビシウムには活性を示さない。種子粉衣、土壌灌注で効果を示し根部からの吸収、移行も認められるので発芽後（稚苗）の苗立枯病防止にもなる。

●なし赤星病に対する作用性は、冬胞子堆の膨潤抑制はないが、小生子形成、発芽阻止作用があり、また病斑進展やさび胞子抑制作用もある。

●物理的、化学的に安定で残効性もある。

●作物の担子菌類による病害の防除に特異的に効果がある。

（稲紋枯病を始め各種さび病、白絹病など）

●各種作物に対する影響もほとんどない。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

●作用特性上、紋枯病にはやや治療効果が見られるが、その他の作物病害には予防効果的であるのでいずれも発病前か発病初期に散布するのが効果的である。

〈紋枯病〉

●上位葉鞘への病斑急増期（垂直進展初期）を中心に散布する。

●疑似紋枯症の発生する地域では、本症対象に穂揃期頃に散布を行う。

〈野菜類苗立枯病〉

●リゾクトニアに起因する苗立枯病のみに効果があり、フザリウム、ビシウムなどには効果がないのでこの場合は他剤と混用する。また処理法として種子粉衣とは種後の土壌灌注の2法があるが、両方を組み合わせると効果的である。

〈なし赤星病〉

●ビャクシンの冬胞子堆膨潤期（冬胞子堆膨潤直前）頃から1週間おき位に連続数回散布するとよい。ビャクシン類への散布は小生子形成阻止により有効である。

〈麦さび病・雪腐菌核病〉

●さび病には止葉展開期と出穂後の2回散布が効果的である。

●雪腐菌核病では黒色小粒菌核病、褐色小粒菌核病には有効であるが雪腐大粒菌核病、紅色雪腐病には効果がないので、トップジンM水和剤又はベフラン液剤との混用散布が良い。

【薬効・薬害等の注意】……………

〈野菜類の苗立枯病防除〉

●リゾクトニア菌以外の病原菌による苗立枯病の多い地区では使用をさける。

●種子粉衣は土壌灌注と組み合わせて使用すると効果的である。

●種子粉衣では適当な容器の中で少しずつ均一に粉衣する。

●土壌灌注では、は種後～子葉展開時1m²当り3ℓの割合でジョロなどで均一に灌注する。なお、発芽時での処理は高温時をさけ朝夕に行う。

〈麦類及び芝の雪腐菌核病防除〉

●なるべく根雪近くに1～2回散布する。なお、スクレロチニア菌、フザリウム菌、ビシウム菌による雪腐病には効果が劣るため、間違いないように注意する。

●ばれいしょの種いも浸漬の場合は、所定濃度の薬液に5～20秒間浸漬し、風乾後植付又は貯蔵する。本剤処理による種いもは食用、飼料などに用いない。

●散布液調製後やボルドー液との混用調製後は速やかに散布する。

●共通注意事項 8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

●適用作物（芝）の葉害などの注意は「葉害注意事項解説」を参照。

●桑葉にかからないように注意する。

●魚類に影響を及ぼすので、使用時は注意。



【安全対策上の注意】

●共通注意事項 6. 街路・公園・堤とう等で使用する場合の注意事項を参照。

【適用と使用法】

作物名	適用病害名	希釈倍数	10 a 当り 使用流量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	メフロニルを含む 農薬の総使用回数		
稲	紋枯病	1000～1500倍	60～ 150 ℓ	14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内		
	疑似紋枯症 (赤色菌核病菌) 疑似紋枯症 (褐色菌核病菌) 疑似紋枯症 (褐色紋枯病菌)	1000 倍							
	麦 類	雪腐小粒菌核病		750～ 1500 倍	根雪前			2 回以内	3 回以内 (根雪前は 2 回 以内、融雪後 は 2 回以内)
		さび病		1000～ 1500 倍	30 日前 まで				
て ん さ い	根腐病	500 倍	100～ 300 ℓ	21 日前 まで	6 回以内	6 回以内			
	葉腐病	125 倍	25 ℓ						
ば れ い し ょ	黒あざ病	70～100 倍	—	植付前又は 貯蔵前	1 回	5～20 秒間 種いも浸漬	1 回		
ふ き	白絹病	1000～ 1500 倍	2～3 ℓ /m ²	定植時		土壌灌注			
だ い こ ん	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	種子重量の 0.4%	—	は種前	3 回以内	種子粉衣	3 回以内 (種子粉衣は 1 回以内)		
	亀裂褐変症 (リゾクトニア菌)	1000～ 1500 倍	100～ 300 ℓ	21 日前 まで		散布			
ト マ ト ミニトマト きゅうり す い か	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	種子重量の 0.4%	—	は種前	1 回	種子粉衣	2 回以内 (種子への処 理は 1 回以 内、土壌灌注 は 1 回以内)		
		750～ 1500 倍	3 ℓ/m ²	は種時～ 子葉展開時		土壌灌注			
ほうれんそう	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	種子重量の 0.4%	—	は種前	1 回	種子粉衣		2 回以内 (種子への処 理は 1 回以 内、土壌灌注 は 1 回以内)	
		200 倍				1 時間種子浸漬			
		1000 倍	3 ℓ/m ²	は種時～ 子葉展開時		土壌灌注			
		750～ 1500 倍							
レ タ ス	すそ枯病	500～ 1000 倍	100～ 300 ℓ	結球開始期 まで 但し、収穫 30 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (種子粉衣は 1 回 以内、は種後は 3 回以内)		

作物名	適用病害名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	メブロニルを含む 農薬の総使用回数		
ぶ　ど　う	さび病	1000 倍	200～ 700 ℓ	45 日 前 まで	1 回	散布	1 回		
な　　し	赤星病	500 ～ 1000 倍		60 日 前 まで	5 回以内		5 回以内		
びゃくしん類				冬孢子 堆膨潤前	3 回以内		3 回以内		
き　　く	白さび病	100～ 300 ℓ	発病初期	5 回以内	5 回以内				
カーネーション	さび病			8 回以内	8 回以内				
た　　ば　　こ	腰折病	1000 ～ 2000 倍	3 ℓ /m ²	苗床期	2 回以内	土壌灌注	2 回以内		
つ　つ　じ　類	もち病	1000 倍	200～ 700 ℓ	発病初期	8 回以内	散布	8 回以内		
や　　な　　ぎ	さび病				3 回以内		土壌灌注	3 回以内	
樹　　木　　類	くもの巣病		3 ℓ /m ²			3 回以内			3 回以内
	白絹病								
せいようきんしばい	さび病								
芝 (日本芝)	葉腐病 (ラージパッチ) さび病	500 ～ 1000 倍	1 ～ 2 ℓ /m ²		8 回以内	散布	8 回以内		
芝 (ペントグラス)	葉腐病 (ブラウンパッチ)								
	雪腐小粒菌核病			根雪前					

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	メブロニルを含む 農薬の総使用回数
野 菜 類	リゾクトニア 菌による病害 (苗立枯病等)	乾燥種子重 量の 0.4%	は種前	1 回	種子処理機に よる種子粉衣	1 回
豆類 (種実)					種子粉衣	
飼 料 作 物	黒穂病				種子処理機に よる種子粉衣	—
ね ぎ	リゾクトニア 菌による病害 (苗立枯病等)					
花 き 類						